

平成 30 年度金沢市廃棄物総合対策審議会 議事録

- 日 時 平成 30 年 11 月 27 日 (火) 9:30～10:30
- 場 所 金沢市西部環境エネルギーセンター「環境学習室」
- 出席者 別紙のとおり
- 内 容 以下のとおり

環境局長

委員の皆様には、ご多用のところお集まりいただき、また、本市の環境行政、そして廃棄物行政にご指導賜り深く感謝を申し上げます。

特に、本年 2 月から開始した家庭ごみの指定ごみ袋収集制度については、何かとお力添えを賜り、重ねて感謝を申し上げます。

おかげさまで、家庭系の燃やすごみと埋立ごみについては 2 割近くの減量効果が持続している。

その一方で、容器包装プラスチックの回収量は 3 割ほど増えており、これはひとえに市民の皆様の環境意識の高さと、制度が定着し始めたためと思っている。

また、最近では大量のプラスチックごみが海洋に流出し、生態系に深刻な影響を与えているという報道をよく目にする。

先日の新聞にも載っていたが、中国の輸入禁止で資源ごみ、特にプラスチックが行き場を失っているとの報道もある。

そんな中、世界的に、プラスチックごみの排出抑制と徹底したリサイクルなどが求められている。

国においても、先月、「プラスチック資源循環戦略」の素案が示され、これから資源循環を総合的に推進する方針が具体化していく動きがある。

そのような状況の中、本市においても、プラスチックごみの排出抑制、そして容器包装プラスチック等の資源化の促進が、何よりも大切な課題になっている。

本日は、容器包装プラスチックの収集体制の見直しと、青海委員にご協力いただいている食品ロス対策について、施策をさらに進めるための、忌憚のないご意見、ご提案をいただきたい。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

事務局

・出席委員の紹介

- ・ 欠席委員の報告
- ・ 出席委員数は 11 名であり定足数を満たしていることを報告
- ・ 進行を会長に依頼

会長

本日は忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。

指定ごみ袋制度が開始されて約 10 か月が経過し、大きな混乱もなく順調に進んでいるように思う。

市には、様々な問い合わせがあり、非常に苦勞していることと思うが、それが結果につながっていると思うので、今後もよろしく願います。

本日は時間が限られているが、円滑に審議を進めたいので、協力をお願いする。

本日の議題は 3 件となっている。

なお、通常は公開で審議しているが、今回は施策の意思形成過程であるという理由から、非公開で進めたいと思うがよろしいか。

(異議なし)

会長

それでは、議題 1 「平成 30 年 2～10 月のごみ排出量（速報値）について」及び議題 2 「家庭ごみの収集体制などについて」は、関連がある議題のため、事務局から一括して説明をお願いする。

事務局

(資料 1 及び 2 について説明)

会長

現状の排出量の報告と、新しい収集体制の提案であった。

この議題について、意見や質問はないか。

委員

第 5 週目は、容器包装プラスチックの収集がないため、次の収集まで 3 週間空くことになり、家に容器包装プラスチックが大量に溜まるので、2 週間隔で収集した方が楽になる。

ただ、ステーション当番の人たちが、容器包装プラスチック以外の器具を出す必要がないので楽だという説明があったが、先日の新聞でごみ袋を開封して全部見ている町会もあるという記事を見た。

各町会のやり方もあるが、手間が増える場合もあると思うので、配慮してほしい。

委員

傘が金属ごみとして回収できるのは非常に良いことだと思う。

ただ、現在、傘を含めて指定ごみ袋に入りきれない大きなごみには、袋を貼りつけるか結び付けて出しているが、そのごみ袋をはがして持っていかれたことがあった。

貼り付けてあるのを当番が確認していたが、収集後にはイエローカードが貼って残されていたとのことで、持っていかれて別のものに使われたと思われる。

貼り付けや結びつけるという方法が、本当に妥当なのか疑問があるので、例えばシールにする等の別の方法を考えてはどうか。

委員 スプレー缶やカセットボンベをステーションに出す際に、残りがあるかと思いガス抜きをしているが、それは必要なのか。

リサイクル推進課長 最近、都会の密閉性の高いマンションなどで引火して火事にならないよう、ガスを抜かないよう注意書きがされている商品もある。
ただ、本市の場合は、屋外にスペースがあることもあり、原則ガス抜きをしていただくようお願いしている。

委員 家庭ごみは指定ごみ袋制度のおかげで減ってきているが、事業系ごみでは制度の変化はなかったのか。
また、それでも事業系ごみが減っているというのは、事業者の意識が変わっているからなのか。

環境政策課長 家庭ごみの指定ごみ袋収集制度と同時に、事業系ごみについては手数料を値上げしており、それにより減量化を推進している。
ただ、家庭ごみは自分の財布に直結しているのに対し、事業系は当事者意識が薄いためか、減少傾向ではあるが少し動きが鈍い。
さらなる、減量化の推進が必要と考えている。

委員 ごみ量が減っていることを、マスコミや市民に対して広報しているのか。

環境政策課長 マスコミ等への広報は適時行っている。
特に市議会では必ず質問されるので、ごみ量について市長も発言しており、マスコミもそれを取り上げている。

委員 まめに情報を流すことが市民に対して一番理解を得る方法だと思う。

会長 2月から10月のごみ量ということで、各項目に明確な結果が出ていて非常にわかりやすいと思う。
ただ年間のごみ量で見ると、去年の駆け込み排出が入ってくるのでどうなるのかわからない。今後も動向を把握してほしい。

ただ、思ったより事業系ごみが減っていなかった。

事業系ごみを減らすのは難しいと思うので、皆様には引き続き良いアイデアがあれば提案をお願いします。

委員 プラスチックごみをリサイクルする一方で、容器包装プラスチックごみが出ない商品を買うなど発生抑制の啓発も必要になる。

会長 今、金沢市のプラスチックのリサイクルは適切に回っているのか。

リサイクル推進課長 最近、新聞等で取り上げられている中国への輸出禁止の影響のことと思うが、本市の家庭ごみについては影響がない。

理由としては、本市で集めているプラスチックごみは、容器包装プラスチック、ペットボトル、硬質プラスチックの3種類あり、そのうち資源として収集している容器包装プラスチック、ペットボトルについては、容器包装リサイクル協会という国が主導する協会を通して資源循環を行っている。

これは、すべて国内循環を前提としているため、家庭から出される容器包装プラスチック等は国内で処理されている。

硬質プラスチックについては、現在燃やすごみとして収集し、東西環境エネルギーセンターにてサーマルリサイクルをしている。

会長 そのような報道等があると、分別収集しても結局リサイクルされていないと誤解する方がいるので、適切に資源化されていると広報することも大切である。

しかし、ただリサイクルすれば良いのではなくて、発生抑制も非常に重要なことだと思う。

環境政策課長 プラスチックごみの発生抑制は非常に大切なことだと思っている。

現在、国が制度や法律を整えているが、自治体ではその制度に歩調を合わせて市民へ普及、啓発を図っていきたい。

脱プラスチックについても、ご意見があればお聞かせいただきたい。

会長 それでは、今回の収集方法の見直しについては、市民の利便性の向上につながるものと考えられるので、了承ということではよろしいか。

(異議なし)

会長 それでは、内容については、委員の皆様のご了承がいただけたので、

導入の時期は市に十分ご検討いただき、市民に十分周知できるように準備をすすめていただきたい。

次に、議題3「食品ロス対策について」事務局の方から説明をお願いする。

事務局

(資料3について説明)

会長

この議題に関して意見、質問はないか。

委員

食品ロスについては、ごみ減量化の研究を行っていた時、県立大学先生を講師に招いて大きなフォーラムをしたことがあるが、何から始めれば良いのかが非常に難しい印象であった。

小さな市町村であれば処理施設を作るなどできるが、金沢市のように人口が多いとなかなか難しい、良いアイデアが思いついたら提案したい。

一つ言えるのは、家庭もそうだが、スーパーやコンビニなどで、どれくらい残ったものを廃棄しているのか、というデータをとることから始める必要がある。

委員

配られたチラシで「おいしくのこさず食べよう」とあるが、業界や消費者の方は中々できないと思う。

アメリカなどでは持ち帰るそうだが、日本では食品衛生法があるため、持ち帰りできないので、もう少し別の角度で工夫した方がいいと思う。

事業系ごみについては、各々の事情や様々なしなごみがあり、川上・川中・川下から1つずつ施策をするというのは、簡単ではないと思う。

また、年々経営者の高齢化が進み、担い手がいなくなっている。企業が減るということは、そこでの雇用も失うことになる。

そのことは、外国人労働者の話にもつながってくるが、ただ外国人を受け入れるだけだと、地域コミュニティが維持発展できない。

やはり、環境だけの話ではなく経済も維持発展させる必要があると思う。

会長

宴会時のチラシは、経営者よりも消費者をターゲットとした啓発に有効だと思う。

また、フードシェア等の食品ロスの削減策は、先ほどの産業構造のこともあり、コンビニでは難しいと思うが、その他の業種では協力できる企業もあるのではないかと。

委員 年末になるといつも感じるのだが、クリスマスや正月が終わるとスーパーの中が模様替えし、商品がなくなっているが、それらは廃棄しているのか。

委員 廃棄している。
我々は販売後のことを考えるので、それを食べることによって、体調を崩すことの方がものすごく問題となる。
賞味期限をみて問題がないものは安売りするが、あとは全部廃棄する。
この売れ残りの問題については頭を悩ませている。

委員 日本人は洋食があったり和食があったり、とにかくメニューが豊富である。
例えば、ドイツではそんなにメニューはない。
そのため、廃棄するのも簡単なのかもしれない。

委員 3010 運動（※1）のアイデアとして、幹事用の宴会シナリオを作成し、提供するというのもいいかと思う。
また、ドギーバッグ（※2）で持って帰る取り組みもある。
それを自分たちで用意するか、事業者で用意するか方法はあるが、事業者が問題のない範囲で、ルールを作って運用すればどうか。

会長 ドギーバックを実際に実施している例はあるのか。

委員 組立て式の牛乳パックのような手提げ形バッグを提供しているお店を見たことがある。

会長 昔は宴会の際に、必ず持ち帰りの折り箱が出てきていたが、それができなくなった。
中国は食べ残し文化なのだが、そこでドギーバッグが出てきて、みんなそれを使って持ち帰っていた。
日本では、衛生上の問題があり難しいと思うが、そのようなことが少しでも復活できればいい。
事業系ごみの問題は、手をつけられる範囲から始めるしかないが、事業者の理解が得られなければ大変難しいことだと思う。

委員 資料に、先進事例の調査研究と書いてあるのだから、研究してみればいいのではないか。

消費者と事業者の相互理解があまりないというのもあるので、先ほど言われた川上・川中・川下でお互いに理解しあえるような機会を設けることが大事だと思う。

会長 家庭系の食品ロスを減らす取り組みとして、フードドライブ（※3）を委員が中心となって行っているとのことだが手応えはどうか。

委員 一般の方から、お中元で貰って自分では食べなかったものや、乳児が成長し不要になったミルクや離乳食、家族の介護食を用意したが、入院したので不要になったものなどが持ち込まれている。

また、企業から賞味期限が近づいた防災食の乾パンや缶詰めなどをいただいたりしている。

持ち込まれたものは、合意書を交わした 13 団体ほどにお渡ししており、少しずつ定着していつている。

社会福祉協議会や包括支援センターなどでは生活に困窮している人にカップ麺やレトルト食品を、こども食堂や地域サロンなどの食事を提供しているところへは乾物や調味料などを提供している。

また、開催場所が駅西保健所だけであり、もっと持ち込みやすい場所で、平日だけでなく土日も開催して欲しいという声がある。

会長 家庭系の食品ロスというのは、冷蔵庫や棚に入りっぱなしで、気が付いたら賞味期限が切れていることが多いが、そのようなものがうまくまわる仕組みになれば良い。

もっと場所を増やすことは難しいのか。

環境政策課長 モデル事業として実施しており、今発言があったように休日に開催してほしいという意見もあるので、今後検討していきたい。

委員 小学生向けに食品ロス対策のパンフレットを作成するのはいい取り組みだと思うが、東西環境エネルギーセンターに見学に来た小学生に配布しているのであって、市内の小学校全体に啓蒙活動をしているわけではないのは少し残念だ。

小学生は純粋なので、勉強したら家に帰って家族に言ってくれる。

そのため、大人世代に対しても効果があると思うので、市内の小学校全体に周知することを検討してはどうか。

環境政策課長 お子さんから親御さんへ伝わるのはいいことなので、さらなる周知を検討したい。

委員 市内の小学校4年生は全員、ごみ処理施設を見学することになっているので、そこでも周知されることになる。

委員 私は、同じような会議によく出席するので、3010運動やフードドライブなどの話をよく聞かすが、一般の人はあまり知らないであろうし、食品ロスがどのくらいあるのかもよく知らないと思う。

そのため、一般の人にも知れ渡るようもっと周知しなければならないと思う。

また、フードドライブだが、駅西保健所だけでなく、もっと山側にも場所があれば良いと思う。

環境政策課長 今のご意見も受け、モデル事業の検証を行っていききたい。

会長 フードドライブやフードバンク（※4）がうまく市民と連携できればいいモデルになるのではないかなと思う。

本日、様々な意見をいただいたが、それを踏まえて来年度に向けて準備を進めていただきたい。

それでは、本日の議題は以上となるが、議事に関する事、それ以外の事でも、意見、質問等はないか。

委員 今年は大雪があったが、ごみの収集において大きな事故もなかったと思う。

ただ、収集時間については、町会ごとに違いはあるが非常に時間がかかり、ご迷惑をかけることになった。

収集中止命令が出なかったのは、指定ごみ袋の収集制度が始まったからかと思うが、雪害対策として、市はどのように考えているのか。

リサイクル推進課長 今年の冬については、委託業者の方にも大変お世話になり、遅いところでは夜の1時ごろまで収集作業されていたと聞いている。

金沢では、今まで雪や台風などでごみ収集を止めたことはないが、今年のような状況がいつ起きるかわからないので、収集業者の方々とはそのような時、どうすればいいか協議してまいりたい。

ただ、行政サービスの一環として、ごみ収集は基本中の基本ということもあり、余程のことがない限り中止することは考えていない。

しかし、一部の町会では、風が強い日や積雪が多い日に、自主的にごみ出しを中止する場合がある。

そういった地域コミュニティとの話し合いも併せて行っていききたいと思う。

委員 了解した。金沢市以外では収集が中止されていたため、近隣自治体
在住の収集職員が金沢市も当然中止だろうと思っていた。
その辺も組合として周知徹底を図っていきたい。

委員 指定ごみ袋制度は、市民からも賛否両論あり、導入して約2割ごみ
が減ったということもあるが、このような大きな制度変更だとその後
のフォローアップが大事だと思う。
普及啓発活動を同時に行わなければ、リバウンドする場合もあるので、やはり市民の理解を得ることが大事だと思う。
まずは1年経った段階で、どれだけごみが減ったかを、市民向けに
公表してもらいたい。

委員 その場合も、ごみ量比ではなく金額比で公表してほしい。
当初、東部環境エネルギーセンターを更新するという大目標があっ
てスタートしている。
ごみは減ったが、収支としてはどうなっているかを、公表しなければ市民は納得しないと思う。

委員 金沢市民は、制度を開始すればちゃんとやってくれる。ただ反対す
るだけではないので、情報をきちんと出すことが大事だし、マスコミ
などを使って説明することが大事だと思う。

委員 たばこのポイ捨てが多く、道端が灰皿のようになっている。
これもごみの問題と併せてマスコミを通してアピールしていただ
きたい。

会長 追加で3つほど意見をいただいた。
災害時の収集体制、データの開示広報、そしてたばこのポイ捨てに
ついて、引き続き検討いただきたい。
これで、本日の議題を終了させていただく。

環境局長 本日は長時間にわたり、皆様から貴重なご意見をいただいた。
まずは、容器包装プラスチックの収集拡充、これについては一定の
周知期間を設けて、町会連合会、校下婦人会、各町会等への説明の機
会を通じて周知させていただきたい。
4月からというのが一般的かと思うので、市の内部で検討しながら
できるだけ早く方針を示したいと思っている。
もうひとつの食品ロスについても、いろいろな課題があり難しい面
もあるが、少しずつ消費者や販売者、生産者の方々の意識を高めてい

くような取り組みを行ってまいりたい。

今年度、ごみ組成調査を実施しており、本年2月からの新制度で、どのようにごみ質が変化したかの検証結果も踏まえ、こういった費用がかかり、どのようなコストの削減ができ、さらに将来的な建設費用等がどのように削減されるか、しっかりと皆様にお示しするとともに、市民の皆様にも丁寧に説明してまいりたい。

本審議会においては、来年度の第6期ごみ処理基本計画の策定にあたり、各制度の検証と次の一手となるごみの減量化・資源化施策について、皆様からのご指導をお願いしたい。

事務局

本日は委員の皆様には長時間にわたり、ご審議いただきお礼申し上げます。

以上をもって、平成30年度廃棄物総合対策審議会を終了する。

- ※1 3010運動・・・宴会の開始後30分と終了前10分は自席で料理を楽しみ、食べ残しを減らす取り組み
- ※2 ドギーバック・・・お店で食べきれなかった料理を自宅に持ち帰るための容器の総称
- ※3 フードドライブ・・・家庭で余っている食品を福祉団体や福祉施設等に寄付する活動
- ※4 フードバンク・・・食品会社の製造工程で発生する規格外品等を福祉団体や福祉施設などに寄付する活動

(別 紙)

平成30年度廃棄物総合対策審議会出席者 (順不同、敬称略)

会長 池本 良子 (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系教授)
青海 万里子 (公募委員)
江口 満 (公募委員)
奥井 めぐみ (金沢学院大学経営情報学部経営情報学科教授)
金岡 幸子 (金沢市一般廃棄物事業協同組合理事長)
西野 茂 (金沢市町会連合会会長)
本谷 悦子 (金沢市校下婦人会連絡協議会副会長
金沢市校下婦人会連絡協議会会長
能木場 由紀子委員の代理出席)
林 健治 (金沢商工会議所常務理事)
三国 千秋 (北陸大学名誉教授)
松川 治彦 (石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事)
道下 博之 (石川県生活環境部廃棄物対策課長
石川県生活環境部長 飴谷義博委員の代理出席)

※欠席者

岡田 侑樹 (「金沢のごみを考える」学生連絡会)
北川 博之 (金沢農業振興協議会会長)
出村 昌史 (金沢大学医薬保健研究域医学系准教授)

(事務局出席者)

佐久間 悟 (金沢市環境局長)
桑原 秀忠 (金沢市環境局担当部長兼環境政策課長)
堀場 喜一郎 (金沢市環境局リサイクル推進課長)
勝田 平俊 (金沢市環境局施設管理課長)
永井 俊宏 (金沢市環境局環境指導課長)
川崎 徹 (金沢市環境局リサイクル推進課長補佐
兼家庭ごみ減量化推進室長)
大野 豊文 (金沢市環境局環境政策課企画庶務係長)
田淵 晃由 (金沢市環境局リサイクル推進課庶務係長)
宮村 浩一 (金沢市環境局リサイクル推進課担当課長補佐)
森 晶子 (金沢市環境局環境政策課主査)
木谷 聖 (金沢市環境局環境政策課技師)